校長荒木規夫から保護者・生徒皆様へのメッセージ【不定期コラム№1】R2 7/1

「私の第一声①」

校長の荒木規夫です。コロナ対応も、まだまだ油断はできませんが、とりあえず収束の方向にあると信じ、学校として、これまでできなかったことを取り戻していく時期に入ったと感じています。

そこで、というか、これから不定期に、校長室だよりの裏面にメッセージを書こうと思います。どれくらいの頻度になるかわかりませんが、もしよければお付き合いください。表面とは違い、このメッセージには、学校からお届けすべき大切な情報は載せませんので、お時間のある方だけお読みください。よろしくお願いします。

さて、本校では、「第一声」という取組みをしています。はじめて出会った生徒たちが、お互い不安な中で、自分はこんな人間で、こんなことを楽しみにしている、といったことをクラスのみんなに伝える、自己紹介のようなものです。お互いのことを知ると少し安心します。

とは言っても、初めて会う友達もいる中で「こんなことを言って、もし、嫌なことを言われたらどうしよう」「自慢しているとか張り切っているとか思われて、クラスから浮かないかな」など、気を使いながらのスタートになります。その不安を解消するために、まずは、担任など、学年の先生が、自分の話をします。今年も、ようやくクラス全員がそろい実施していますが、ある学年で、自分の体のことを語った担任がおり、それを聞いた感想に「こんなことまで話をしてくれる先生は、私たちを信じてくれているんだなと思った」と書いた生徒がいたそうです。お互いを信じられるようになるためには、さまざまなことを一緒に乗り越えていくことが必要ですが、これから９か月かけて、つながりを作っていきます。

それでは、私も、第一声をさせていただきます。

【生まれてから中学卒業まで】

私は、現在、50 才。1969 年に生まれた時には、熊取町に住所がありました。生まれた病院は、当時評判がよいので選んだ JR 東貝塚駅前にある三谷医院。父は堺の生まれ。今のザビエル公園のあたりに家があったそうです。母は鹿児島県の生まれ。ジャンボ尾崎の設計した祁答院ゴルフクラブのある村出身です。お見合い結婚で、母は嫌々（笑）大阪にきたそうです。最近知ったのですが、父の祖母が慶応３年生まれの西川松乃さん。なんと蕎原出身です。縁とは不思議ですね。

父は、熊取町の原子炉実験所の技官（理系の事務員）をしていたので、官舎に６才までおり、第五保育所に通い、のびのびとゴレンジャーごっこをして遊んでいました。時は田中角栄首相の列島改造の時代。泉北ニュータウンが開発され、堺市赤坂台に引っ越します。少しでもなじめるようにと、小学校にあがる前の転入ですが、これが大失敗！口だけは達者な私は、小生意気なガキだったので、家の近所のガキ大将に嫌われ、幼稚園初日から、さんざんいじめられます。母親は小学校の産休講師をしており、学校で先生に怒られたことを家で言うと家でも怒られるので、いじめられる原因は自分にあると思いこみ、親には相談できませんでした。私は覚えていませんが、後で母が言うには、そのガキ大将に背中に乗られ縄跳びの縄を咥えさせられ、ハイドウハイドウと歩かされていたと、近所の方から教えてもらったそうです。母としては、つらいけれど、親が出ていく話ではないと我慢していたそうです。一旦いじめられると、その構造はなかなか変わらず、赤坂台小学校の６年間続きます。その間、身長も伸びず、体重も増えず、上り棒は靴下を脱いで足の裏を使わないと登れず、逆上がりもできず、跳び箱は怖くて３段も飛べず、勉強はクラスの下から数えるほうが随分早い（あのころは順位を教えられていましたね）くらい。小児ぜんそくだったし、夜尿症も小学校高学年まで続いていたと思います。

ところが、赤坂台中学校の１年生になり、隣の新檜尾台小学校からきた何人かの子が「面白いやつやん。いっしょに遊ぼう」と仲間に入れてくれたのです。話を聞いてくれる、話を聞かせてくれる、クラブも勉強もがんばることが当たり前、いじめなんて時間がもったいない、そんな雰囲気が仲間内にありました。私は急に身長が伸びはじめ、中３の長距離走では学年１位（サッカー部では最後まで下手でしたが引退まで在籍）、勉強は得意にはなりませんでしたが、泉陽高校に進学しました（英語は最後まで苦手でした）。その仲間７人を、私は人生の恩人だと思っており、今も毎年１月２日、地元で飲み会をしています。

だから私は、中学校の仲間づくりが人生を決めることがあることを確信しています。大切な３年間を、のびのび学んでもらうために、校長としてできることは、どんなことでもしたいと考えています。

【不定期コラム№2】へつづく